

たきのうえを思う



函館市在住
小田桐 智 さん

今年も滝上の方々から年賀状をいただきました。うれしいです。滝上を離れたのは平成14年3月、もう千支が一回りしました。月日がたつのは速いものです。平成8年春、北見南中から滝上中へ異動となりました。住宅が決まり、その住所を聞き、たいへん驚きました。「紋別郡滝上町字滝ノ上原野1線番外地」、原野？番外地？いったいどこに住むんだらうと不安になったものでした。電話番号にも驚かされました。当時電話番号は市外局番が6桁で市内局番は無し、町内にかける場合は4桁でした。こんな電話番号があるんだと初めて知りました。平成18年、滝上の市外局番6桁が国内で最後に4桁に変わると

聞いたときには寂しさを感じたものでした。

教師としてはたいへん未熟者でした。成長期・充実期にあたる中学校3年間はとても大切な、そしてかけがえのない期間です。この間に生徒たちの能力を十分に引き出して、本物の学習や生活に近づけるように指導するのが自分の務めだったはず。いろいろな反省しきりです。しかし何とか務めることができたのは生徒の頑張りはもちろんのこと、保護者や地域の皆様からのお力添えやご協力のおかげだと感謝しております。感謝を込めて、「生徒」・「保護者」・「地域」の思い出を振り返ってみたいと思います。

●感受性豊かな生徒

滝上中学校で勤務させていただいた6年間は今までの教師生活の中で本当に幸せな時間でした。思春期を迎え、反抗期真っ盛りの中学生なはずなのに、人間味にあふれ、素直な生徒がとても多いことに感動することが数多くありました。滝上町の子どもたちは豊かな環境のなかで生活していくことで五感を使い、自然に感受性を磨いているのだと思います。

滝上中でのたくさんの思い出が今も教師を続けていく原動力となっています。30歳の誕生日

に「味噌と痔の薬(三十路)」をもらったことは一生忘れない思い出です(笑)。

●支援を惜しまない保護者

中学校の行事で印象深いのは「廃品回収」と「運動会」です。「廃品回収」を初めて体験したときはそのスケールの大きさに度肝を抜かれました。25トトラック5・6台に新聞や空き瓶などの廃品があふれ、収益金も30万円を超えていたと記憶しています。それを支えていたのが、生徒の保護者の方々です。トラックの運転、廃品の回収・仕分けなど労力を惜しまず、生徒とともに一生懸命汗を流したことをよく覚えています。また「運動会」では朝早くから大きな声援を送っていた姿が印象的でした。焼き肉あり、お酒あり？と地域の大きなお祭りのようでした。雨で濡れたグラウンドに保護者が総出でおがくずをまいてくださり、運動会を何とか終えることができたことも忘れられない思い出です。

学校を支援することを惜しまないあたたかい保護者の方々に囲まれ、思い切った教育活動を行えたことが自分の財産になっています。

●心あたたかい地域

町内ソフトボール大会、三百歳バレーボール大会、ミニバレーボ

ール大会、パークゴルフ大会などたくさんの行事に参加させていただきました。仲間に入れていただけののがたいへんうれしかったです。大会の後は必ず反省会、おいしいお酒をたくさん飲ませていただき、楽しい時間を過ごすことができました。

地域の方々への教育にかけるの思いを知り、学校の意義、教師の存在価値を改めて考えることができた有意義な時間でした。たくさん勉強させていただきました。酒に強くなつたのは滝上町の方々のおかげです(笑)。

滝上町で6年間の生活でたくさんの示唆をいただき、成長することができました。滝上の地に根をしっかりと張り、ふるさとのために活動している人々と交流していく中で自分もふるさとを拠点として活動したいと思うようになりました。離れたい滝上ではありませんが、縁があって自分の生まれ故郷である函館市に異動させていただきました。現在は自分の母校(函館的場中)に勤務し、生まれ育った地域の子どもたちのために微力ながら努力させていたと思っています。

滝上のみなさまの今後のご健勝と滝上町のますますのご発展を心からお祈り申し上げます。

今年も子どもたちを連れて滝上に遊びに行こうと思っています。